



With コロナにおける リウマチ・膠原病治療の 注意点



だな たけし
産業医 田名 毅
首里城下町クリニック

産業医だよりでは、毎月私のクリニックで行っている 地域むけ医療講演会の内容を要約してお伝えしています。第199回の地域むけ医療講演会は「With コロナにおけるリウマチ・膠原病治療の注意点」と題し、当院第二クリニック 院長 比嘉 啓先生にお話しいただき YouTube 配信(当院 HP より聴取できます)をいたしました。以下に内容の要約を紹介いたします。

1. コロナ時代のリウマチ・膠原病の治療について

参考になるサイトを紹介していただきました。

「日本リウマチ学会ホームページ」「日本腎臓学会ホームページ」

「厚生労働省 新型コロナウイルス感染症の手引き」 外来で質問の多い回答が掲載されており紹介していただきました。

日本リウマチ学会からのお知らせ

● 新型コロナウイルス (COVID-19) への対応について (患者様向け情報)

2020年5月18日

産業医向け情報

※重要情報があれば適宜更新いたします。

● 患者様向け情報

Q1: 免疫抑制薬、生物学的製剤、抗リウマチ薬、ステロイドを使い続けていても大丈夫ですか？

A: 現時点では、免疫抑制薬、生物学的製剤、抗リウマチ薬、ステロイド治療を受けている方が COVID-19 にかかり易くなるというデータはありません。COVID-19にかかった場合に、重症化の可能性が高くなると報告されているのは、糖尿病、高血圧、心疾患、脳血管疾患です。一方、免疫抑制治療の減量・中止によってリウマチ性疾患が再燃する恐れがあります。また、COVID-19の悪化には肺における過剰な免疫反応が関与している可能性も考えられています。したがって、患者さんの状況に応じた対応が必要です。また、今のところ注意しなければならない併用薬は示されていません。

● 感染を疑う症状が出た時 ●

感染症の症状がある場合は重症になる可能性もありますので、主治医の先生に相談して投薬についての指示を仰いでください。自己判断は禁物です。原則として、ステロイドはそのまま継続し、メトトレキサート(MTX)や生物学的製剤、免疫抑制剤は投薬の減量や一時的な延期を検討する必要があります。

感染を疑う症状としては以下があげられます。

- ・ 発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合
- ・ 強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある場合
- ・ 嗅覚・味覚障害が出現した場合

Q2: 家族内に感染者が出た場合(感染者の濃厚接触者となった場合)、どのような対応が必要でしょうか？

A: 厚生労働省より、家庭内での注意事項が示されています。要点は下記のとおりです。

1. 感染者と他の同居者の部屋を可能な限り分ける
2. 感染者の世話をする人は、できるだけ限られた方(一人が望ましい)にする
3. できるだけ全員がマスクを使用する
4. こまめにうがい・手洗いをする
5. 日中はできるだけ換気をする
6. 手で触れる共用部分(取っ手、ノブなど)を消毒する
7. 汚れたリネン、衣服を洗濯する
8. ゴミは密閉して捨てる



濃厚接触者の方は、既に感染している可能性もあります。感染者の症状が軽快してから 14 日間経過するまでは、健康状態を監視してください。また、外出する際はマスクを着用し、こまめに手を洗ってください。

2、新型コロナウイルス感染症の診療の手引き(厚労省)に記載されている重症化リスクとは

第3版 (2020.9月)

表 2-1 重症化のリスク因子

重症化のリスク因子	重症化のリスク因子かは知見が備っていないが要注意な基礎疾患等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 65 歳以上の高齢者 ・ 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) ・ 慢性腎臓病 ・ 糖尿病 ・ 高血圧 ・ 心血管疾患 ・ 肥満 (BMI 30 以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物学的製剤の使用 ・ 臓器移植後やその他の免疫不全 ・ HIV 感染症 (特に CD4 <200 /L) ・ 喫煙歴 ・ 妊婦 ・ 悪性腫瘍



3、その他気をつけること

冬場の感染症として注意する病気に、季節性インフルエンザがあります。発熱した場合に新型コロナウイルス感染症との鑑別が難しくなることがあります。インフルエンザワクチンを接種したから絶対にインフルエンザに罹患しないわけではありませんが、発熱する可能性を少しでも減らす観点からインフルエンザワクチンの接種は意味あることと考えます。また、細菌性肺炎の主な原因とされる肺炎球菌ワクチンを接種することは、高齢に加えて基礎疾患がある場合には、肺炎を予防する手段として大変意義あるものになります。

これら 2 種類の接種可能なワクチンが、65 歳以上の方、基礎疾患がある方々は積極的な接種をお勧めします。

65 歳以上の方へ (定期接種対象者の方へ)

季節性インフルエンザワクチン接種時期について御協力おねがいします。希望される方はお早めに。

これから冬にかけて季節性インフルエンザの感染が増加します。感染すると発熱や喉の痛み等の症状が現れますが、中には肺炎や脳症等の重い合併症が現れ、入院治療を必要とする方や死亡される方もいます。

インフルエンザワクチンの最も大きな効果として、肺炎や脳症等の重い合併症等を予防することが研究により示されています。下記対象の方は日程のとおり、お早めにワクチンの接種をお願いします。

10月1日～

定期接種対象者

- ・ 65 歳以上の方
- ・ 60 歳から 65 歳未満の慢性高度心・腎・呼吸器機能不全者等



下記の方は 10月26日以降 に接種をお願いします。

- ・ 医療従事者
- ・ 介護従事者
- ・ 基礎疾患を有する方
- ・ 妊婦
- ・ 生後6ヶ月～小学校2年生

ワクチンの供給量は例年より増加していますが、接種が10月に集中すると一時的にワクチンの不足が想定されるため、接種時期のご協力をお願いします。

※記載された方以外の方も接種できます。

肺炎球菌ワクチン

	ニューモバックス(PPSV23)	フレベナー(PCV13)
特徴	カバーできる範囲が広い	免疫誘導能力が高い
接種間隔	5年ごとに接種可	不要
公費	定期接種(¥3,500~4,000) 任意接種(¥7,500~8,000)	任意接種 (¥11,000~12,000)

※ワクチン接種に関しては主治医とご相談下さい



4、まとめ

- ① リウマチ・膠原病・腎臓病の患者さんは新型コロナウイルス感染症(以後コロナ感染症)にかかりやすい、また重症化しやすいというデータは出ていない。
- ② よって感染していないときに、患者さんがコロナ感染を恐れて免疫抑制剤・降圧薬をはじめとする通常のお薬を中止するべきではない。
- ③ コロナ感染症を疑ったら、ステロイドは絶対に中止しないで、その他の免疫抑制剤は主治医の指示に従うこと。
- ④ インフルエンザや肺炎予防のためのワクチン接種が望ましい。



第 200 回 首里城下町クリニック地域むけ医療講演会

テーマ：コロナ時代における健康管理のあり方



日 時： 令和2年11月11日（水）午後7時

YouTube 配信のみ

講 師： 琉大医学部 循環器・腎臓・神経内科 教授 大屋祐輔 先生
医療法人麻の会 首里城下町クリニック第一 院長 田名 毅

首里城下町クリニック『働く人健康支援室』は、



産業医・内科医
高血圧が専門です
田名 毅

あなたの **相談窓口** です！



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー
認定産業看護師 田名彩子

相談窓口

産業医は、あなたの職場とそこで働く人々の心とからだの健康を支援します。

★訪問日を設けている事業所の職員は、お気軽に訪問日をご活用下さい。

★クリニック内の『働く人健康支援室』では健康相談を行っています。

事前にお電話の上、いらしてください。

★クリニック内で産業医との面談は診療の合間となりますが可能です。

事前にお電話くださり働く人健康支援室で“産業医との面談”とお声掛けください。診察や検査の必要がない限りは無料です。

★その他、電話やメール相談も随時行っています。



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー
與儀雅代



看護師 衛生管理者
糖尿病療養指導士
新垣朋子



認定産業看護師
山城愛子



連絡先

首里城下町クリニック 働く人健康支援室
098-885-5000

携帯 080-4312-9200(田名彩子)

メール sien@sjc.dr-clinic.jp(働く人健康支援室)

プライバシーは守ります。

お気軽にご利用下さい！